

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 宮城県 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ, Ⅱ 】
2 実施対象者	登米市立中田中学校 1学年 5学級 150名 2学年 4学級 134名 3学年 5学級 150名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) ② 行事名 (パラリンピアン講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 (地域コミュニティー運動会ボランティア) ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	(1)パラリンピアン講演や障害者スポーツ体験を行うことで障害の有無にかかわらず、互いに尊重し合うとともに自己をより成長させようとする心情を養う。 (2)地域コミュニティーで行われる運動会にボランティアとして参加することをとおして、地域における役割を自覚し、もてなしの心をもって接することができるようにする。
5 取組内容	(1) パラリンピアンによる講演会 ①ねらい 身近なパラリンピアンとの講話をとおしてパラリンピックに対する興味・関心を高めるとともに、目標をもって努力することの大切さを感じ取らせる。 ②期日等 平成29年11月9日 全校生徒対象 ③講師 小野寺公正氏 登米市の出身でアーチェリー競技アテネパラ団体2位等 ④内 容 中学校での競技との出会いやその後、障害を克服し自分を高めていく様子などについて。障害を克服していく様子から、決して諦めないこと、努力を積み重ねることの大切さが伝えられた。



(2) 障害者スポーツ体験

①ねらい 障害者スポーツの体験をとおして、障害の有無にかかわらずスポーツを楽しんだり互いに尊重できるようにする。

②時期等 12月中 1年生

④指導者 及川節夫氏

⑤内 容 宮城県障害者スポーツ指導者連盟の及川氏からシッティングバレーボールの指導を受けた。はじめ座ったままでボールをつなぐことが難しそうであったが、だいに慣れ、ゲームを楽しむことができるようになった。



(3) コミュニティー運動会へのボランティア参加

①ねらい コミュニティー運動会へボランティアとして参加することで、地域の一員としての役割を自覚するとともに、おもてなしの心をもって接することができるようにする。

②期日等 ・宝江コミュニティー 5月20日

・浅水コミュニティー 5月28日

・石森コミュニティー 9月10日

・上沼コミュニティー 9月17日

③内 容 それぞれ希望した10名程度の生徒が参加し、準備や競技の補助等を行った。事前にボランティアとしての心構えや地域行事に参加する意義等の指導を行った。



6 主な成果

(1) アンケート調査より

①質問 事業をとおしパラリンピックに興味・関心がもてたか。

②調査結果 ・よく持てた44.8% ・持てた51.9%

・あまり持てない3.1% ・持てない0.1%

(抽出調査N=135, 12月実施)

講演会及び障害者スポーツ体験をとおして、9割5部以上の生徒が肯定的な回答をしている。これまでパラリンピックについて触れる機会が少なかったことに加え、身近なパラリンピアン講演や体験ができたことが要因と考える。

(2) パラリンピアン講演会

障害があっても強い意志でそれを克服し、競技に取り組む姿勢に多くの生徒が共感することができた。また、決して諦めないことや努力を積み重ねることを大切さについて学ぶことができた。

(3) 障害者スポーツ体験

障害の有無にかかわらず、スポーツをとおして共に楽しんだり互いに尊重しようとしたりする意識の高まりがみられた。

(4) コミュニティー運動会への参加

小学生から高齢者まで幅広い年齢層の方に応じた話し方や接し方を工夫している様子が見られた。また、地域からは中学生が

	<p>参加することで、地域の活性化につながると好評を得た。</p> <p>さらに、コミュニティ運動会への参加を契機にコミュニティ祭りや音楽祭などへの参加要請があり、ボランティアへの関心が高まった。</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>(1) 地域の人材を生かした事業展開 講演会の講師や障害者スポーツの指導者は身近な存在であり、親しみを持って接することができた。また、講演会の講師は中学生時代に葛藤を経てアーチェリーをはじめたが、その経緯など中学生にとって共感できる内容であった。</p> <p>(2) コミュニティスクールとの関連 本校では、平成31年度にコミュニティスクール導入を目指して準備を進めている。これまで中学生が地域行事に参加する機会は少なかったが、地域の方々に中学生の姿を見てもらうことでコミュニティスクールとしての議論のきっかけとしていく。</p>
8主な課題等	<p>(1) オリンピック・パラリンピックの開催地等から離れていることもありボランティア等の機会がない。オリンピック・パラリンピックをいかに身近なものとしてとらえさせる工夫が必要である。</p> <p>(2) 障害者スポーツ体験は指導者との関係から全ての学年での実施は困難であった。指導者の発掘が必要である。</p> <p>(3) 事業の開始時期が遅すぎる。6月頃には開始できるよう配慮願いたい。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>(1) 障害者スポーツ体験 今年度は1年生で実施したが、次年度以降も1年生で実施し3年間で全ての生徒が体験できるようにしたい。</p> <p>(2) 保健体育での指導 教科の中でスポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学びを推進する。</p>